

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170504047		
法人名	有限会社 ケイアンドケイ		
事業所名	グループホーム いちえ		
所在地	札幌市清田区美しが丘5条5丁目9番27号 (電話) 011-881-3521		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年2月26日	評価確定日	平成21年3月9日

【情報提供票より】 (平成21年1月10日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年3月25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13人, 非常勤 3人, 常勤換算	12.8人

## (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1、2 階部分

## (3) 利用料金等

家賃 (平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:18,000円 暖房費(11~3月): 6,000円
敷金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 90,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,400 円		

## (4) 利用者の概要 (1月 10日現在 )

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 79.3 歳	最低 49 歳	最高 91 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	クランク病院・にひら歯科・紺野整形外科クリニック・札幌里塚病院
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームいちえ」は、夏には蝉の声が聞こえる自然に恵まれた新興住宅地に位置している。ホーム内は廊下がV字型に交わる特徴のある設計で、居間や台所からも全体が見渡せるようになっている。法人内の他のグループホームのケアの経験を活かし、トイレは場所によって手すりの位置を変えたり、水道の栓も洗面所によって異なった形にするなど、それぞれの利用者が使いやすいように工夫されている。管理者は、利用者と職員の大家族のようなホームを目指し、職員と共に家庭的な雰囲気の中、利用者一人ひとりの力を最大限に発揮して活かせるようなケアを心がけ、温かな支援をしている。利用者は、利用開始により身体状況がよくなるケースも多く、明るく穏やかな日々を送っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 前回の外部評価で取り組みとされた栄養バランスの専門的チェックは、法人本社の管理栄養士に2、3ヶ月ごとに献立を見て貰い指導を受けるなど、取り組みが行われている。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 今回の自己評価は、家族との関わりや日常のケアに関する50項目程度を選択して全職員に渡し、職員自身の振り返りも含めて、反省や今後の取り組みを記入して貰い、管理者と計画作成者がまとめ上げている。自己評価をする事により、自己を見つめ直す良い機会になったと職員は感じている。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、町内会長、副会長、老人クラブ会長や家族、地域包括支援センター職員などが参加し、事業所の活動報告、外部評価結果報告や災害対策などについて話し合われている。参加者からの助言や要望も活発に出され、運営推進会議の取り組み方や地域との交流についても、積極的な回覧板の利用等有意義な意見が出されている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 年4回の季刊紙で事業所の様子を報告すると共に、毎月担当職員が利用者の様子を手紙に書き、スナップ写真などと一緒に家族に郵送している。家族の来訪時に話しかける事により、意見や希望、要望などを率直に言って貰える関係ができています。家族から出された要望や意見は、申し送り時に報告すると共に、連絡ノートに記録して話し合い、結果を家族に報告している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 町内会に加入し、ゴミ拾いに利用者と共に参加したり、夏祭りの出店に出かけてヨーヨーつりやゲームなどを楽しんでいる。町内会の運動会にも声をかけて貰い見に行っている。避難訓練、消火訓練の時に個別に近隣を訪問して案内状を渡しているが、地域住民の参加は、まだ得られていない。子供110番に加入して、地域防犯と子供の安全面に力を注いでいる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域の中で家庭的な雰囲気のもと「その人らしい生活」ができるように援助する。「その方の持っている力」を最大限に引き出し一つひとつ、ゆっくり、楽しく、一緒に、生活の再編を目指すというケア理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は居間に掲示し、パンフレットにも掲載している。会議の時や新入職員が入った時は、利用者のその人らしさを大切に、持っている力を引き出すためにどのように関わる事が大切かなど理念について話し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、ゴミ拾いに利用者と共に参加したり、夏祭りの出店に出かけてヨーヨー祭りなどを楽しんでいる。町内会の運動会にも声をかけて貰い見に行っている。避難訓練、消化訓練の時に個別に近隣を訪問して案内状を渡しているが、地域住民の参加は、まだ得られていない。	○	今後は、事業所内での行事に地域住民が参加して貰えるように、積極的に声かけをしていきたいとの事なので、その取り組みを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を全職員に渡し、自身の振り返りも含めて、反省や今後の取り組んでいきたい事を記入して貰い、管理者と計画作成者がまとめ上げている。自己評価を作成後、職員全員で話し合う機会を設けている。自己評価をする事により、自己の振り返りになったと職員は感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、町内会長、副会長、老人クラブ会長や家族、地域包括支援センター職員などが参加し、事業所の活動報告、外部評価結果報告や災害対策などが話し合われている。参加者からの助言や要望も活発に出されている。	○	参加者からの助言もあり、今後は会議式で意見を出す方式から、勉強会方式の会議も取り入れていきたいとの事なので、その取り組みを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に数回、管理者が市役所を訪問し、提出書類で分からない事を聞いたり、成年後見制度の相談をするなど、できる限り家族のサポートをしていきたいという思いで、市役所などを訪問する機会をつくっている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回の季刊紙で事業所の様子を報告すると共に、毎月担当職員が利用者の様子を手紙に書いて、スナップ写真などと一緒に家族に郵送している。利用者にて体調変化があった時や病院の受診後は必ず電話連絡をしている。小遣い帳のコピーと領収書を来訪時に確認して貰いサインを貰っている、遠方の家族には、郵送で金銭出納報告を行っている。	○	季刊紙を利用して、職員の紹介だけでなく、異動や離職の報告も行われるように期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの入口に意見箱を設置している。家族の来訪時に話しかける事により、意見や希望、要望などを率直に言って貰える関係ができています。家族から出された要望や意見は、朝、夕の申し送り時に報告すると共に、連絡ノートに記録して話し合い、結果を家族に報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係を重視して、職員の異動は行われていない。職員の異動や離職の報告は、利用者によって対応を変えているので、現在は利用者へのダメージはないと感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の内部研修計画をたて、歯科衛生士を招いての口腔ケア研修、消防署の指導で緊急対応についての研修など全職員が参加して毎月勉強会が行われている。グループホーム協議会などが主催する外部研修には、職員の希望を重視しながら、経験に合わせて積極的に参加させ、毎月の勉強会で研修報告を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	清田区のグループホーム連絡会での勉強会や法人内の他のグループホームとの管理職研修、一般職員の参加による合同の事例検討会などに参加して交流をする事で、サービスの質の向上に努めている。	○	現在、一般職員レベルでの交流が少ないので、今後は、管理者同士の繋がりなども活かして他のグループホームとの相互訪問や勉強会を開催し、更なるサービスの質の向上を期待したい。
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの相談を受け、自宅や病院を訪問して本人に会って話をした後事業所を来訪して貰い、利用者とお茶を飲んだり話をして過ごして貰う事で安心してサービスを開始できるようにしている。現在は、利用開始前にショートステイの経験者が多いため、利用開始はスムーズに行われていると感じている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が知らない時代の経験やおせち料理の由来などを教えて貰ったり、時間に追われている時に、利用者により話しかけられる事で落ち着く事に気づかされるなど、人生の先輩として職員は利用者から学ぶ事も多く、支えられていると感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から、利用者の昔の様子を聞いたり、入浴時や寝る前など1対1で話をする事により、利用者の希望や意向の把握に努めている。言葉で表現できない利用者の思いや意向は、表情や動作で汲み取るように努力している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	最初の介護計画は、初期プランで1ヶ月経過を見た後、病院の医療情報、家族記入による生活背景や生活機能調査票、以前に利用した介護サービスの情報、本人の希望や訴えをもとに、カンファレンスで職員の意見やアイデアを出し合って作成する。これを家族に示して確認を取り、本人にも可能な限り説明して実行計画としている。	○	家族の確認は、来訪を待って説明するのでは遅くなることもあるので、郵送して電話で説明するなどして遅滞なく確認を取れるようにすることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、日々のミーティングや連絡ノートをもとに、毎月モニタリングを行い、必要な見直しを加えている。健康状態の変化、入退院、機能の変化、本人の希望の変化などがあれば、随時途中でも見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、理美容院への送迎を行っている。協力医の積極的な指導とアフターフォローにより、リハビリは極力ホームで行うことで、早期退院、入院期間の短縮を図っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診医療機関は本人・家族の希望に沿って決めている。かかりつけ医の受診には職員が同行し、必要によっては記録を持参して病状を説明している。診察内容は職員が聴取して家族に報告すると共に、介護に必要な情報の裏づけとしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始の時点で重度化や終末期に向けた方針について文書をもとに話し合い、確認をしている。健康状態の低下が進行した時点で、随時再検討を重ねている。それらの内容は医師にも伝えると共に、医師の意向を家族に伝えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	目上の人として尊敬し、話す時は上からの目線にならないよう気をつけ、言葉遣いは不適切にならないよう、職員同士注意し合い、学習会などで理解を深めている。個人情報ファイルは事務所に保管し、記帳の際も他の人の目に触れないよう、注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方は、食事時間以外は各自の自由で、歌やトランプ、ゲームなど思い思いに楽しんでいる。利用者に頼まれてすぐに応じられない時はむげに断ることなく、事情を話して待ってもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が献立を作る時には利用者の希望を聞き、料理本の絵を見せながら好みのものを取り入れるようにしている。季節の食材を取り入れ、事業所の菜園で取れた野菜を食卓に載せる。車椅子の人も食事の時は食卓椅子に座って貰っている。職員も歓談しながら食事を共にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝から夕方まで、曜日に関係なく、毎日入浴できる。週に2回以上は入浴できるよう、誘導している。拒否をする人も、浴室で足湯をしながら清拭することは拒まない。体力の低下した人も極力自力で入れるよう、手すりをたくさん付け、浴槽の縁に腰掛けられる工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人・家族から生活歴や得意とすることの情報を得て、能力を發揮し楽しめるような場面を作っている。調理関連の仕事、掃除、畑仕事、簡単な修繕などを依頼するほか、習字、民謡、読書、カルタ、輪投げ、ゲームなどの楽しみを提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏の天気の良い日はほぼ毎日のように、散歩、買い物、図書館などに外出し、時には車で遠方の公園や大型店、雪祭り、紅葉見物、イルミネーション見物などに出かけている。近隣には広い公園や林があり、ちょっとした外気浴や散歩には良い環境に恵まれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はユニットの出入り口および表玄関に鍵をかけておらず、出入りはチャイムや音の出る飾りで察知している。常に利用者の所在や挙動に注意しながら、出ようとする時は声をかけ、出れば付き添って出かけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、春と秋に、消防署の協力と指導の下で、火事の際の通報、避難、初期消火などの訓練をしている。冬期の夜間を想定した訓練も行っている。運営推進会議で、町内会を通じて近隣への協力依頼もできている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量および水分摂取量は個人別に記録されている。水分摂取は1500～2000ccをメドに、不十分な場合はゼリー、プリン、アイスクリームなどで補っている。栄養はガイドブックを参考に配慮しているほか、法人の栄養士のチェックとアドバイスを得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下がV字型に交わるユニークな設計で、程よい見通しができるようになっている。雛人形や桃の花など、季節に因んだ装飾に配慮している。トイレには場所によって異なった形の手すりが付けられ、利用者の特性によって使い分けられている。同様に、水道の栓も場所によって異なったタイプが配置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類はすべて持ち込みとし、それぞれ使い慣れたもので独自の居住空間ができるよう考慮している。ベッド、カーテン、電灯まで、各自の好みによっている。テレビ、写真、人形、壁飾り、敷物、椅子など、心なごむ生活空間を感じさせる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。